

新潟市スポーツ推進計画
第3次「スポ柳都にいがた」プラン

(令和5年度～令和12年度)

素案

概要版

新潟市

1 計画策定の趣旨

新潟市は、平成17年度に新潟市スポーツ振興基本計画「スポ柳都にいがた」プランを策定し、市民がいつでも、どこでも、だれとでもスポーツに親しみ、楽しむことができる「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現を基本理念とし、「健康スポーツ」「競技スポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」の4つの基本方針の推進と、各分野に関連する「スポーツ情報・スポーツ医科学支援体制」の充実を図るため、各種施策を推進してきました。

平成26年度には第2次計画を策定し、これまでの基本理念や基本方針を引き継ぎながら、当時の社会状況やスポーツを取り巻く「人口減少と超高齢化」「東京オリンピック・パラリンピックの開催」「障がい者スポーツの推進」「スポーツ施設の整備改修」の4つの視点を取り入れ、計画を推進してきました。

この間、国内外ナショナルチームの合宿等の誘致により、本市のスポーツの拠点性を高めてきた一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、さまざまなスポーツイベント、競技大会の延期・中止を余儀なくされました。外出の自粛や交流の制限が求められ、日常の運動・スポーツ活動にも大きな影響が及びました。

そのような中でも、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等での新潟県関係選手の活躍を通じて、スポーツの「人々の心を動かす力」や「楽しさ」を再確認することができました。

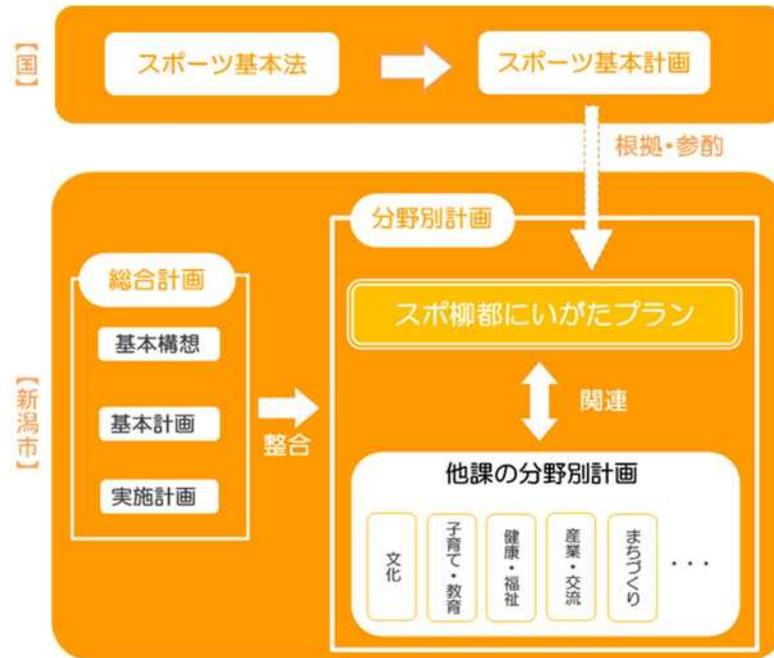
令和4年3月には国において、第2期スポーツ基本計画の計画中に生じた少子高齢化の加速や、さまざまな技術革新によるライフスタイルの変化等を踏まえ、第3期スポーツ基本計画が策定されました。

こうした国の動向や、本市のスポーツを取り巻く現状や課題を踏まえ、新潟市スポーツ推進計画第2次「スポ柳都にいがた」プランを引き継ぎ、発展させた、新潟市スポーツ推進計画第3次「スポ柳都にいがた」プランを策定しました。



2 計画の位置づけ

本計画は、新潟市総合計画（令和5年度～令和12年度）に体系づけられるとともに、国が策定した「スポーツ基本計画」の方向性を参考にしています。



3 計画期間

計画期間は、令和5年度から令和12年度までの8年間とします。

また、計画の進捗状況、社会情勢、国や本市の政策の動向等により見直します。

なお、具体的な施策・事業を明らかにするために、実施計画を策定し計画を推進します。

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
国の計画 スポーツ基本計画		令和4～8年度（5年間）								
新潟市総合計画		令和5～12年度（8年間）								
スポ柳都にいがたプラン		令和5～12年度（8年間）								
実施計画		4年間					4年間			

4 基本理念

「スポーツによる活力の創出」

市民一人一人が、健康の保持・増進、ひいては健康寿命の延伸につながる豊かな生活を営むことができるよう、ライフステージに応じたスポーツに親しめる機会の提供に取り組み、生涯スポーツ社会の実現とスポーツの魅力を活かしたまちの活性化を目指します。

5 基本方針

- 1 生涯スポーツ社会の実現
- 2 競技力の向上、人材育成の推進
- 3 スポーツを活かしたまちづくり



6 到達目標

本計画では、基本理念の実現に向けた進捗を測るために設定した総合指標を到達目標としています。

- 1 週1日以上スポーツ※をする市民の割合を70%
 - 2 スポーツ環境への満足度を60%
- ※散歩やラジオ体操などの軽い体操、自転車での通勤なども含みます。

7 計画の体系

理念	方針		施策
スポーツによる活力の創出	1 生涯スポーツ社会の実現	(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出	①子どものスポーツ推進
			②働き盛り・子育て世代のスポーツ推進
			③高齢者のスポーツ推進
			④障がい者スポーツの推進
			⑤スポーツイベント・教室の充実開催
			⑥暮らしの中での健康づくり
		(2) スポーツを支える環境づくり	①スポーツを支える組織（スポーツ推進委員・スポーツ振興会・スポーツ少年団・スポーツボランティア等）の育成・支援
			②市民から愛される指導者の養成
			③スポーツ施設の整備・改修、施設利用環境の充実
			④気軽にスポーツに取り組める情報を発信
			⑤子どもを取り巻くスポーツ環境の変化への対応
			⑥医科学など関連分野との連携
	2 競技力の向上、人材育成の推進	(1) 選手・指導者の育成	①ジュニアを主体とした競技力向上施策の推進
			②指導者の育成・資質向上の取組
			③障がい者の競技スポーツ推進
3 スポーツを活かしたまちづくり	(1) スポーツを通じた交流の推進	①文化・スポーツコミッションと一体となった大会・合宿等の誘致	
	(2) スポーツの魅力を活かした愛着の醸成と賑わいづくり	①地元プロスポーツとの連携	
		②スポーツを活用した賑わいづくり	

8 成果指標・目標値

基本理念実現に向けた進捗を測るための総合指標のほか、総合指標の目標達成を図るうえで重視する個別の成果を施策指標とし、次のとおりとします。

	成果指標	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和12年度)	
総合	週1日以上スポーツをする市民の割合	50.8% ※1	70%	
	スポーツ環境への満足度	42.5% ※1	60%	
施策	卒業後にも運動やスポーツをしたい と思う児童の割合(小学校5年生)	87%	90%	
	卒業後にも運動やスポーツをしたい と思う生徒の割合(中学校2年生)	83%	90%	
	週1日以上スポーツをする 30・40代の市民の割合	44% ※1	65%	
	週1日以上スポーツをする 65歳以上の市民の割合	56% ※1	70%	
	スポーツ施設利用者数	254万人	380万人	
	スポーツに関する情報発信が 足りないと感じる市民の割合	40% ※1	27%	
	市内小中高生への激励金支給件数	90件	140件以上	
	スポーツ指導者研修会の延べ参加者数 ※2	40人	800人	
	障がい者スポーツ全国大会等 参加激励金支給件数	6件	8件以上	
	主要スポーツイベント	観戦者数	11,800人	31,200人
		参加者数	1,700人	13,750人

※1 令和4年度値を採用

※2 現状値(40人)は令和3年度の単年度の値、目標値については今後8年間(令和5年度～令和12年度)での延べ参加者数

9 基本施策

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことができる取り組みを推進します。

また、気軽にスポーツに親しみながら体力の向上や運動の習慣化に取り組んでもらえるよう、大会の運営や各種スポーツ教室の開催などに、トップアスリートや関係団体とも連携しながら取り組みます。

(2) スポーツを支える環境づくり

スポーツと地域の関わり、スポーツの多様化や少子化による影響など、取り巻く環境の変化に対応しながら、関係者と共にスポーツ環境の充実や指導者の育成など、ハード・ソフト両面から市民のスポーツ活動を支えます。

医科学など関連分野との連携も踏まえながら、スポーツ実施や健康増進に資する取組を推進します。

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1) 選手・指導者の育成

新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地となるよう、競技力の向上を推進します。

また、将来の活躍が期待されるジュニア選手の育成・強化や、指導者の育成・資質向上、障がい者の競技スポーツの普及促進を図ります。

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(1) スポーツを通じた交流の推進

新潟市の持つ魅力を活かした、国際・全国大会や合宿の誘致、イベントなどの開催により、スポーツを通じた交流を推進し、地域や経済の活性化につなげます。

(2) スポーツの魅力を活かした愛着の醸成と賑わいづくり

地元プロスポーツチームをはじめ、スポーツ団体などとの連携により、観戦や社会貢献活動などを通じスポーツに親しみ新潟市への愛着を深めてもらうとともに、賑わいのあるまちづくりにつなげます。

「スポ柳都にいがた」プラン名称のいきさつ

平成17年度に策定した新潟市スポーツ振興基本計画は「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現のため、計画を象徴する名称として、『スポ柳都にいがた』と表現しました。

スポーツの「スポ」と、スポーツをする、みる、支える、の「る」と合わせ、「スポる」という造語にしました。そして「る」については、新潟を象徴する「柳都（りゅうと）」の「柳」を「る」と読み『スポ柳（る）都（と）にいがた』としました。

「スポーツ」の範囲

本市では、競技スポーツだけでなく、散歩やレクリエーション、野外活動も含めた身体的活動全般、さらにはスポーツを観戦したり、スポーツをボランティア活動として支えたりすることなど、スポーツの範囲については「する」「みる」「支える」スポーツとして幅広くとらえています。



■満席のホームスタジアム(写真提供:アルビレックス新潟)